

平成 22 年度厚生労働科学研究費補助金（成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業）

「望まない妊娠防止対策に関する総合的研究」

（主任研究者：竹田 省（順天堂大学医学部産科婦人科学講座教授））

（分担研究者：北村邦夫（（社）日本家族計画協会家族計画研究センター所長））

「第 5 回男女の生活と意識に関する調査」結果（速報）

調査は、国民男女の生活と意識について知る目的で行われました

望まない妊娠を防止するには様々な要因が考えられることから、「第 5 回男女の生活と意識に関する調査」ではわが国における新たな取り組みの方向性を探る目的で本研究を実施しております。

質問の内容を以下に列挙しました。

- （1）日常生活や考え方について
- （2）性の意識や知識について
- （3）対象者自身の性行動について
- （4）初めてのセックス（性交渉）について
- （5）現在の避妊の状況について
- （6）低用量ピルについて
- （7）子宮頸がん予防ワクチンについて
- （8）人工妊娠中絶について

調査は、層化二段無作為抽出法という方法で行われました

「第 5 回男女の生活と意識に関する調査」を行うにあたっては、個人のプライバシーに十分留意しつつ、層化二段無作為抽出法という調査手法を用い、平成 22 年 9 月 1 日現在満 16～49 歳の男女個人 3,000 人を対象として行われました。調査は平成 22 年 9 月 11 日（土）～9 月 28 日（火）に実施。その結果、長期不在、転居、住居不明によって調査票を手渡すことができなかったものを除く 2,693 人のうち有効回答数は 1,540 人（男性 671 名、女性 869 名）、57.2%でした。回答者の平均年齢は男性 33.8 歳、女性 34.5 歳。

層化二段無作為抽出法とは、まず、①全国の市区町村を都道府県を単位として 11 地区に分類し、さらに、②各地区においては、都市規模によって大都市、人口 10 万人以上の都市、人口 10 万人未満の都市、町村いう 4 層に層化しています。その上で、区・都市規模別各層における推計母集団数の大きさにより、それぞれ 3,000 の標本数を比例配分し、各調査地点の標本数が 13～23 になるように調査地点数を決めてい

ます。次に、抽出の 1 段階目として、各層内で国勢調査区より割り当てられた地点数を無作為に抽出し、2 段階目として各地点を管轄する自治体の役場で住民基本台帳から対象者個人を抽出しました。調査は、平成 22 年 9 月 11 日（日）から 9 月 28 日（火）の期間、抽出された対象者宅に調査員が訪問し、調査票を手渡し、その後回収に何うという方法（調査員による訪問留訪問回収法）がとられました。

回答者の性別と年齢分布

		16～ 19歳	20～ 24歳	25～ 29歳	30～ 34歳	35～ 39歳	40～ 44歳	45～ 49歳	
総数	総数	1,540	126	165	218	221	295	249	266
		100.0	8.2	10.7	14.2	14.4	19.2	16.2	17.3
男性		671	61	65	107	103	133	98	104
		100.0	9.1	9.7	15.9	15.4	19.8	14.6	15.5
女性		869	65	100	111	118	162	151	162
		100.0	7.5	11.5	12.8	13.6	18.6	17.4	18.6

回答者の年齢 総数 34.2 歳 男性 33.8 歳 女性 34.5 歳

以下、今回の調査で、興味ある結果を得た、いくつかの話題に絞ってご紹介しましょう。

性に関わる情報は中学卒業までに知っておきたい

性に関する事柄を16項目あげ、それぞれについて一般的には何歳くらいの時に知るべきだと思うかを聞いてみました。国民の大半はこれら16項目については15歳まで、すなわち義務教育終了までには知るべきと考えています。特に、“コンドームの使い方”を中学3年生に教えることは不適切であると烙印を押されかねませんが、15歳までに知るべきと回答した国民の割合は、第1回目(02年)62.8%、第2回目(04年)61.8%、第3回目(06年)68.7%、第4回(08年)68.5%、第5回(10年)67.2%と6割を超えています。

性に関する以下の事柄について、15歳までに知るべきと思う割合(%)

(北村邦夫：「男女の生活と意識に関する調査」2002、2004、2006、2008、2010)

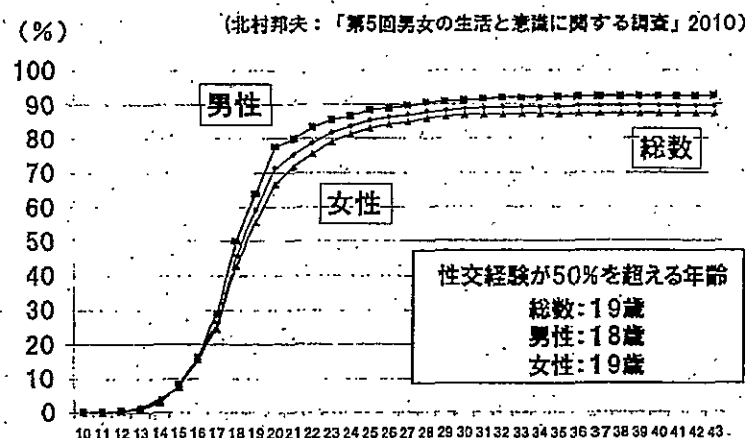
	2010年	2008年	2006年	2004年	2002年
男女の心と身体の違い	92.6	93.7	92.7	88.7	90.3
二次性徴、月経、射精などの仕組み	93.0	95.0	94.1	89.6	90.8
受精、妊娠、出産、誕生のしくみ	89.8	91.9	90.6	84.9	86.7
セックス(性交渉)	73.4	74.9	73.2	65.7	60.0
避妊法	76.3	77.2	76.5	70.1	75.0
人工妊娠中絶	65.1	68.0	66.9	61.4	66.8
エイズとその予防	77.1	77.0	78.1	71.8	75.1
エイズ以外の性感染症とその予防	74.2	74.7	73.5	68.8	72.3
コンドームの使い方	67.2	68.5	68.7	61.8	62.8
多様な性のあり方	59.4	57.5	55.7	50.8	50.6
性的被害の対処法	66.2	67.7	66.1	60.4	61.0
男女間の平等や助け合い	80.4	80.0	81.5	75.4	73.1
結婚	59.5	58.6	57.5	46.6	49.9
離婚	56.1	53.7	52.7	41.7	45.7
人と人とのコミュニケーション	86.4	85.9	84.7	80.2	76.0
性に関する倫理や道徳	76.8	78.1	76.2	72.1	70.9

異性間での累積性交経験率に男女差なし

「あなたが、最初に異性とセックス(性交渉)したのは何歳の時ですか」の問いに対して、男女1,301人(男性565人、女性736人)の結果が得られています。性交経験者での平均年齢は19.0歳(男性18.9歳、女性19.1歳)

となっています。無回答を除く累積性交経験率を過去の調査と比較しますと、15歳時点での経験率は、現在16~19歳の女性は1.6%、男性は6.6%であり、他の年齢層に比べて低いことがわかります。性交開始が低年齢化、加速化しているという印象は受けません。これを年齢別に分布をみると、男女差がほとんどないことも特徴となっています。

年齢別累積性交経験率(経験無回答者を除く)



セックスレス化がさらに進行。婚姻関係にある人では40.8%

日本性科学会は1994年にセックスレスについて、「特殊な事情が認められないにもかかわらずカップルの合意した性交あるいはセクシュアル・コンタクト（ペッティング、オーラルセックス、裸での同衾など）が1ヶ月以上なく、その後も長期にわたることが予想される場合」と定義しています。

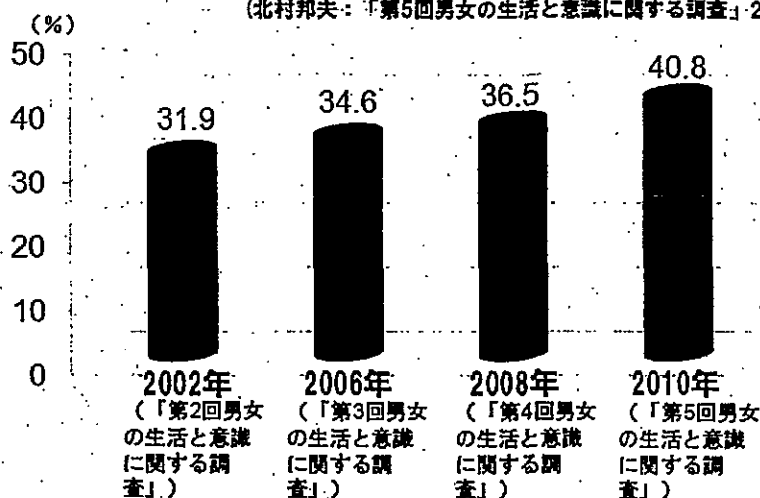
本調査では、これまでにセックスをしたことがある者（1,301人）に、この1ヶ月間のセックス回数を聞いたところ、「1回」15.1%、「2回」11.1%、「3回」8.2%、「4回」6.9%、「5回以上」8.7%となっています。一方、「この1ヶ月間は、セックス（性交渉）をしなかった」は45.3%という結果でした。

婚姻関係にある回答者（初婚・再婚）でも40.8%が該当しており、年齢階級別には婚姻関係にある40歳以上では5割近くとさらに高率となっています。

2001年に朝日新聞社がインターネットで調査した「夫婦1000人に聞く」でのセックスレス割合は28.0%、「男女の生活と意識に関する調査」2004年、2006年、2008年がそれぞれ31.9%、34.6%、36.5%ということから婚姻関係にあるカップルのセックスレス化が一段と進行していることが窺えます。

婚姻関係にあるカップルで進むセックスレス化

（北村邦夫：「第5回男女の生活と意識に関する調査」2010）



婚姻関係にある人がセックスに対して積極的になれない理由を尋ねると、「出産後何となく」が第一位で20.9%（男性18.9%、女性22.1%）、次いで「面倒くさい」20.9%（男性10.7%、女性26.9%）、「仕事で疲れている」16.1%（男性19.7%、女性13.9%）などとなっています。

婚姻関係にある人がセックスに対して積極的になれない理由

（北村邦夫：「第5回男女の生活と意識に関する調査」2010）

	総数	男性	女性
n=	330	122	208
出産後何となく	20.9	18.9	22.1
面倒くさい	20.9	10.7	26.9
仕事で疲れている	16.1	19.7	13.9
セックスより楽しいことがある	5.8	4.9	6.3
家族（肉親）のように思えるから	4.2	3.3	4.8
相手がいない	3.3	8.2	0.5
相手の一方的なセックスに不満ある	1.8	2.5	1.4
妊娠することへの不安が強い	1.8	2.5	1.4
勃起障害に対する不安がある	1.8	3.3	1.0
家が狭い	1.2	2.5	0.5
セックスに際して痛みがある	0.9	0.0	1.4
その他	19.4	22.1	17.8
無回答	1.8	1.6	1.9

若年男性の「草食化」は事実か？

2010 年は男性の草食化が話題になりましたが、2008 年と 2010 年とを比較すると、それを裏付ける結果となっています。

セックス（性交渉）をすることに、関心がないと嫌悪しているを加えた割合をみると、男性だけでなく女性でも、その割合が高いことがわかります。

セックス（性交渉）をすることに、「関心がない＋嫌悪している」割合の推移（％）

（北村邦夫：「男女の生活と意識に関する調査」2008、2010）

	2008年	2010年
男性 16～19歳	17.5	36.1
20～24歳	11.8	21.5
25～29歳	8.3	12.1
30～34歳	8.2	5.8
35～39歳	9.2	17.3
40～44歳	13.1	18.4
45～49歳	8.7	22.1
女性 16～19歳	46.9	58.5
20～24歳	25.0	35.0
25～29歳	25.0	30.6
30～34歳	30.4	45.8
35～39歳	35.7	50.0
40～44歳	47.5	55.6
45～49歳	45.4	58.6

わが国の女性の人工妊娠中絶経験者は15.5％、そのうち反復中絶者は35.6％。

これまでに人工妊娠中絶の手術を受けたことが「ある」という女性は15.5％。女性だけに絞って見ると、本調査からは16～19歳では人工妊娠中絶の手術の経験者はなく、20～24歳で7.0％、25～29歳で14.4％、30～34歳（14.3％）、35～39歳（16.0％）、40～44歳（21.2％）、45歳以上（22.8％）と回答しています。さらに、中絶のリピーターは女性の35.6％と高率となっています。

また、過去1年間に人工妊娠中絶手術を受けたことがある女性は全体で1.3％となっていました。

これまでに人工妊娠中絶手術を受けたことがある女性（135人）に、最初の人工妊娠中絶手術を受けることを決めた理由を尋ねたところ、「相手と結婚していないので、産めない」（27.4％）という者が最も多く、次いで「経済的な余裕がない」（13.3％）、「相手との将来を描けないから」（11.9％）、「自分の仕事・学業を中断したくない」（7.4％）と続いています。5歳階級別にみると、「相手と結婚していないので産めない」がもっとも多かったのが、45～49歳で32.4％、次いで35～39歳の30.8％。「経済的な余裕がない」は30～34歳29.4％、20～24歳28.6％と高率でした。

最初の人工妊娠中絶手術を受けることを決めた理由（女性）％

北村邦夫：「第5回男女の生活と意識に関する調査」、2010）

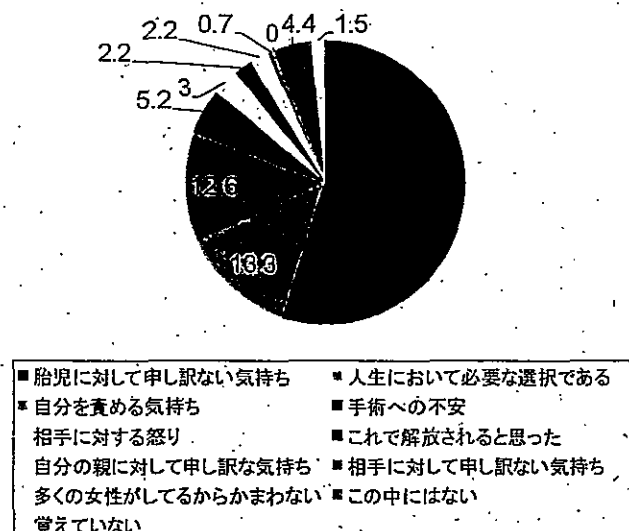
	該当数	16～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳
相手と結婚していないので産めない	27.4	-	14.3	18.8	29.4	30.8	25.0	32.4
経済的な余裕がない	13.3	-	28.6	18.8	29.4	7.7	12.5	5.4
相手との将来を描けないから	11.9	-	14.3	12.5	23.5	7.7	9.4	10.8
自分の仕事・学業を中断したくない	7.4	-	14.3	12.5	5.9	7.7	9.4	2.7
身体が妊娠・出産に耐えられない	5.9	-	-	-	-	3.8	12.5	8.1
これ以上、子どもは欲しくない	4.4	-	-	6.3	-	11.5	-	5.4
育児していく自信がない	3.0	-	-	12.5	5.9	-	-	2.7
相手が特定できないから	0.7	-	-	-	-	-	-	2.7
相手のことが好きではないから	-	-	-	-	-	-	-	-
この中にはない	25.9	-	28.6	18.8	5.9	30.8	31.3	29.7

最初の人工妊娠中絶を受けることを決めたときの気持ち：「胎児に対して申し訳ない気持ち」「自分を責める気持ち」が大半。

これまでに人工妊娠中絶手術を受けたことがある女性（135人）に、最初の人工妊娠中絶手術を受けることを決めたときの気持ちを聞いたところ、「胎児に対して申し訳ない気持ち」が54.8%で最も多く、次いで「自分の人生において必要な選択である」13.3%、「自分を責める気持ち」（12.6%）などの順になっています。男性については、「胎児に対して申し訳ない気持ち」が31.0%と最も多いとはいえ、女性の方が約13.8ポイント近く多くなっています。

最初の人工妊娠中絶を受けた時の気持ち（女性）

（北村邦夫：「第5回男女の生活と意識に関する調査」、2010）



人工妊娠中絶を繰り返す女性は、「婚姻関係にある」「子どもがいる」は言うまでもありませんが、生活習慣なども深く関与

人工妊娠中絶を繰り返す女性の特徴を、各設問とのクロス集計から探ってみました。統計的に有意な差が認められるものを以下列挙します。数値は%で、順に「中絶経験なし」「中絶経験1回のみ」「反復中絶経験あり」

1. 「中学生の頃の家庭」 楽しくなかった (23.4%, 34.9%, 40.4%)
2. 「両親の離婚経験」 はい (12.7%, 14.0%, 25.5%)
3. 「自傷行為（リストカットなど）の経験」 ある (4.8%, 14.9%, 29.8%)
4. 「中学生がセックスすることについての考え」 学校の授業 (42.0%, 34.5%, 25.0%)
5. 「低用量経口避妊薬（ピル）の認知度」 よく知っている (10.7%, 23.0%, 31.3%)
6. 「初めての異性とのセックス」 重大だと思っていた (75.8%, 69.8%, 54.2%)
7. 「初めてセックスした相手との知り合い方」 町で声をかけられたりして知り合った (2.4%, 6.9%, 16.7%)
8. 「初めてのセックスの時に避妊したか」 避妊しなかった (18.7%, 23.0%, 37.5%)
9. 「人工妊娠中絶についての考え方」 認める (70.2%, 80.4%, 85.4%)
10. 「結婚したい気持ちがあるか」 いいえ (22.4%, 30.4%, 77.8%)
11. 「子どもの有無」 いる (52.5%, 87.2%, 89.6%)
12. 「学歴」 大学卒業・大学院卒業 (19.6%, 10.6%, 6.3%)
13. 「喫煙習慣」 習慣的に吸っている (13.0%, 26.7%, 54.2%)
14. 「一週間の飲酒量」 一合以上 (18.8%, 25.9%, 41.7%)
15. 「婚姻関係」 ある (52.9%, 72.4%, 81.3%)

この一年間の避妊、「いつも避妊している」「避妊したり、しなかったりしている」は56.9%。避妊法は85.5%がコンドーム、低用量ピルは3.4%。

これまでにセックス（性交渉）をしたことのある男女（1,301人）に、この1年間の避妊の状況を聞いたところ、「いつも避妊している」と答えたのは37.8%、「避妊をしたり、しなかったりしている」者は19.1%、「避妊はしない」という者は17.8%でした。このうち、「いつも避妊している」と「避妊したり、しなかったりしている」と回答した者（740人）に、主な避妊方法を聞くと、男性用コンドーム（85.5%）、膣外射精（性交中絶）15.9%、「経口避妊薬（ピル・飲む避妊薬）」3.4%、「オギノ式」（3.2%）、「基礎体温法」（1.4%）、「不妊手術（女性）」1.2%、「子宮内避妊具（IUD/IUS）」0.9%などの順でした。

毎日新聞社人口問題調査会が行ってきた「全国家族計画世論調査」は既婚女性を対象としていますので、本調査も既婚（初婚・既婚）女性に限ってまとめました（以下表）。

わが国既婚女性の避妊法の選択（1952年～2010年）

	現在実行している人を対象に													現在と前に実行している人を対象に				
	本研究					25回	24回	23回	22回	21回	20回	19回	15回	10回	5回	1回		
	2010	2008	2006	2004	2002	2000	1998	1996	1994	1992	1990	1988	1980	1970	1960	1952		
男性用コンドーム	79.7	79.6	78.5	67.1	70.7	75.3	77.8	77.2	77.7	75.3	73.9	76.8	81.1	68.1	58.3	35.6		
女性用コンドーム	-	0.4	0.4	0.5	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
性交中絶／膣外射精	17.2	16.7	17.8	17.3	17.5	26.6	7.4	9.6	7.1	7.6	6.5	4.9	5.2	6.9	11.5	12.7		
オギノ式定期禁欲法	4.3	3.6	3.3	3.0	3.6	6.5	8.4	8.1	7.1	9.2	7.3	6.6	23.1	33.9	40.4	27.4		
女性不妊手術	2.7	2.9	2.2	2.7	3.9	5.3	4.6	5.3	5.8	5.0	7.4	5.8	2.9	0.0	5.4	0.0		
基礎体温法	2.3	1.5	4.4	4.6	2.5	9.8	8.2	8.9	6.8	7.3	8.0	9.7	0.0	0.0	6.1	0.0		
子宮内避妊具（IUD）	1.6	1.1	1.5	1.6	2.1	2.7	3.1	3.8	3.7	4.9	4.7	5.3	8.3	7.2	0.0	0.0		
洗浄法	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	1.1	0.5	0.5	0.9	1.2	0.6	1.6	1.0	2.1	4.9		
ピル	2.3	2.2	1.1	1.1	0.7	1.5	1.1	1.3	0.6	1.3	1.0	1.7	3.2	1.7	0.0	0.0		
男性不妊手術	0.8	1.1	0.4	0.3	0.4	1.1	1.2	1.2	1.2	1.2	2.4	1.6	1.1	0.0	0.9	0.0		
避妊薬（錠剤／ゼリー／フィルム）	0.4	0.4	0.4	0.3	0.0	0.5	0.8	0.5	0.8	1.2	1.0	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0		
ベッサリー	-	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.1	0.3	0.0	1.1	4.3	7.4	7.8		
ゼリー、フィルム	-	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.9	6.4	13.3	15.4		
錠剤	-	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.3	7.8	7.2	14.2		
スポンジ	-	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	1.5	0.0		
無回答	-	0.0	0.0	0.0	0.0	2.4	2.6	2.6	3.1	2.2	2.5	2.7	1.2	3.8	4.2	10.7		
その他（無回答）	3.1	2.5	3	14.0	7.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.2	3.8	1.1	4.3		
不妊手術	*3.5	*4.0	*2.6	*3.0	*4.3	*6.4	*5.8	*6.5	*7.0	*6.2	*9.8	*7.4	*4.0	5.4	0.0	0.0		

（※は再掲、1回から25回までは毎日新聞社人口問題調査会：全国家族計画世論調査、2002・04・06・08年・10年のデータは『男女の生活と意識に関する調査』結果）

緊急避妊法の認知度一段と高まる

「あなたは、『緊急避妊法』『モーニングアフターピル』『性交後避妊』のいずれかの言葉を聞いたことがありますか」の問いに対して、30.0%（男性23.1%、女性35.3%）が「聞いたことがある」と回答しています。『ノルレボ錠』という緊急避妊ピルについては、12月24日に薬事分科会で承認されたばかりであり、従来から日本には公に認められた方法がなかったにもかかわらず、この認知度の高さに驚かされます。しかも、年々上昇している様子がうかがえます。「聞いたことがある」女性のうち6.5%が利用したことがあると回答しており、その数を試算すると60万人を超えています。

モーニングアフターピル、性交後避妊、緊急避妊法の言葉聞いたことあるか

	第5回(2010年)			第4回(2008年)			第3回(2006年)			第2回(2004年)		
	総数	男性	女性	総数	男性	女性	総数	男性	女性	総数	男性	女性
聞いたことある(件)	1,540	671	869	1,468	647	821	1,409	636	773	1,580	690	890
聞いたことがある(%)	30.0	23.1	35.3	28.5	26.4	30.2	24.3	20.8	27.3	20.8	17.0	23.7
聞いたことがない(%)	68.2	75.6	62.5	67.4	69.2	65.9	72.2	76.1	69.0	75.8	79.0	73.4
無回答・無回答(%)	1.8	1.3	2.2	4.1	4.3	3.9	3.5	3.1	3.8	3.4	4.1	2.9

（北村邦夫：厚生労働科学研究「男女の生活と意識に関する調査2004/2006、2008、2010」から）

子宮頸がん予防ワクチン、女性の71.3%が接種したい

2009年12月から接種が始まった子宮頸がん予防ワクチン。国民の関心が極めて高いことがわかります。

「あなたは子宮頸がんを予防するワクチンについて知っているか」の問いに、62.7%（男性42.5%、女性78.4%）が「知っている」と回答し、「接種したい」あるいは「接種して欲しい」は71.6%（男性72.0%、女性71.3%）と極めて高率でした。

あなたは「子宮頸がんを予防するワクチン」を接種したいか（男性の場合、あなたの相手に接種して欲しいか）

（北村邦夫：「第5回男女の生活と意識に関する調査」2010）

	総数	非常に接種したい	まあ接種したい	どちらでもない	あまり接種したくない	まったく接種したくない	無回答	（再掲）接種したい	（再掲）接種したくない
	1,540	36.1	35.5	19.5	4.2	2.0	2.7	71.6	6.2
男性	671	38.7	33.2	19.8	3.4	1.9	2.8	72.0	5.4
16～19歳	61	29.5	39.3	19.7	4.9	4.9	1.6	68.9	9.8
20～24歳	65	26.2	38.5	24.6	4.6	4.6	1.5	64.6	9.2
25～29歳	107	45.8	34.6	14.0	3.7	0.9	0.9	80.4	4.7
30～34歳	103	37.9	28.2	20.4	5.8	2.9	4.9	66.0	8.7
35～39歳	133	45.9	28.6	18.8	1.5	0.8	4.5	74.4	2.3
40～44歳	98	31.6	40.8	23.5	3.1	1.0	-	72.4	4.1
45～49歳	104	43.3	28.8	20.2	1.9	1.0	4.8	72.1	2.9
女性	869	34.1	37.3	19.3	4.7	2.1	2.5	71.3	6.8
16～19歳	65	26.2	44.6	16.9	7.7	1.5	3.1	70.8	9.2
20～24歳	100	33.0	41.0	15.0	5.0	3.0	3.0	74.0	8.0
25～29歳	111	42.3	35.1	18.0	1.8	1.8	0.9	77.5	3.6
30～34歳	118	42.4	40.7	12.7	2.5	0.8	0.8	83.1	3.4
35～39歳	162	35.2	35.8	21.6	1.9	1.9	3.7	71.0	3.7
40～44歳	151	30.5	35.1	21.2	7.3	2.6	3.3	65.6	9.9
45～49歳	162	28.4	34.6	24.7	7.4	2.5	2.5	63.0	9.9

「18歳くらいの頃までに、両親や同居していた方から虐待を受けたことがある」が全体の5.0%（男性2.2%、女性7.1%）

「18歳くらいの頃までに、両親や同居していた方から虐待を受けたことがある」と回答した方が全体の5.0%（男性2.2%、女性7.1%）に上ることが明らかにされました。「ある」と回答した方に、その内容を尋ねますと、

「心理的な虐待（子どもの心を傷つけるようなことを繰り返すなど）」が最も多く66.2%（男性53.3%、女性69.4%）、次いで「身体的な虐待（殴る、蹴る、熱湯をかける、たばこの火を押つけるなど）54.5%（男性80.0%、女性48.4%）、「養育の放棄（ネグレクト、食事を与えない、長時間放置するなど）15.6%（男性13.3%、女性16.1%）、「性的な虐待（性的な行為の強要、性器や性交を見せるなど）11.7%（男性0%、女性14.5%）となっています。

本調査結果に対するお問い合わせ先は、（社）日本家族計画協会家族計画研究センターの杉村由香理(sugimura@jfpa.or.jp)あるいは北村邦夫(kitamura@jfpa.or.jp)

電話 03-3235-2694、fax 03-3269-6294